

マルチ人間大槻文彦の諸相 —教育者・大槻文彦—

東北大学大学院文学研究科 後藤斉

2020年1月18日

於仙台市民活動サポートセンター 6階セミナーホール

大槻文彦(1847～1928)は明治期に日本初の近代的国語辞典『言海』(1889-91)を編纂した国語学者として知られている。しかし、大槻の知的関心は国語辞典と日本語文法の編纂を軸としながらも、多方面にわたってからみあっていたのだ。大槻は校長として2度仙台に赴任したほか、教育の分野で様々な貢献をした。中学校での教え子、吉野作造からは終生にわたって敬愛を受けた。この講義ではこの二つの観点から大槻のマルチな活動に迫ろうと思う。

0. 大槻三賢人

祖父玄沢(1757～1827) 一関藩医から仙台藩医となり江戸に定住。蘭学者として多くの門人を育成。『蘭学階梯』(1788. 蘭学入門書)、『重訂解体新書』(1798成、1826刊)ほか著訳書多数。『環海異聞』(1807成. ロシア帰還漂流民からの聴取記録)、『金城秘韞』(1812稿. 慶長遣欧使節とその将来品の調査記録)なども。

父磐溪(1801～1878) 儒学者。養賢堂学頭。一時、蘭学を志し、西洋砲術を修得。『猷芹微衷』(1849)で親露開国論。ペリーの黒船を視察して報告の絵巻『金海奇観』(1854)。『彼理日本紀行』(1862)の翻訳を指導。戊辰戦争で会津藩追討回避などの文書を起草、降伏後に入牢となるが、のち釈放。『孟子訳解』(1851)、『近古史談』(1854成)など。『呂宋国漂流記』(1845)も。

1. 教育者 大槻文彦

養賢堂での漢学・洋学修業、漢学での教員扱い

師範学校勤務(1873)

官立宮城師範学校初代校長(1873～75)

第一高等中学校教諭(1886～1888)

仙台の教育・文化活動への協力(終生)

宮城県尋常中学校(現仙台一高)初代校長(1892～1895) 新校舍落成式(1899. 7. 20)、

仙台一中創立三十年記念式(1922. 6. 6)

教え子など

宮城師範学校

木村敏(1850～1908) 伝習学校設立。仙台師範学校長、養賢小学校(現東二番丁小)校

長兼務。宮城野区榴ヶ岡みやぎNPOプラザ敷地に大槻撰文の顕彰碑。

陸羯南くがかつなん(1857～1907) 弘前出身。中退。ジャーナリスト、『日本新聞』社長・主筆。

宮城県尋常中学校

吉野作造(1878～1933) 政治学者。大崎市に記念館。

千葉亀雄(1879～1935) ジャーナリスト。美里町近代文学館に記念室。父は宮城師範学校で大槻の教え子。

真山青果(1878～1948) 中退。劇作家、小説家。

本多浅治郎(1867～1939?) 愛知県出身。東大卒業後、宮城県尋常中教諭に就職し、弟光太郎(物理学者、東北大総長、文化勲章、仙台市名誉市民)の進学を支援。のち歴史学者、早稲田大学教授。

小倉進平おぐら(1882～1944) 言語学者、京城帝大・東大教授。父長太郎が大槻と昵懇。